

平成27年7月

もくじ

Ι 主な改定事項

- 1 施工パッケージ型積算方式の導入
- 2 設計単価の決定方法

Ⅱ 施工パッケージ型積算方式の概要

- 1 施工パッケージ型積算方式における用語の定義
- 2 積算単価(補正式のイメージ)
- 3 施工パッケージ型積算方式標準単価表
- 4 補正式

Ⅲ さいたま市における施工パッケージ型積算方式の運用

- 1 補正式の運用
- 2 補正式の計算例

Ⅰ 主な改定事項

1 施工パッケージ型積算方式の導入

国土交通省において、平成24年10月より順次導入されている施工パッケージ型積算方式(以下「新積算方式」という。)について、本市においても平成27年8月より導入します。

新積算方式の対象工種は、平成27年4月に公表されている63工種208パッケージです。

2 設計単価の決定方法について

本市の積算に用いる設計単価は、さいたま市土木工事設計単価表(以下「単価表」という。)を基本とし、単価表に掲載のない資材等の単価については、物価資料(「積算資料」、「建設物価」)や見積りにより決定することとしています。

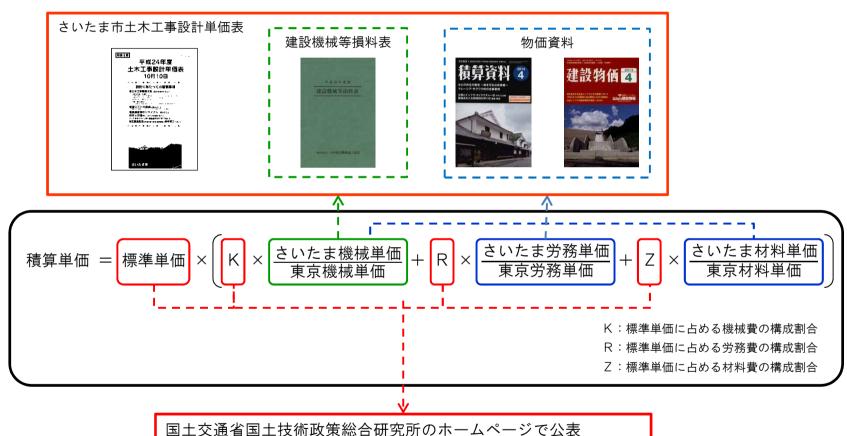
これまで、資材等の設計単価決定にあたっては、物価資料や見積りの最低値を採用していましたが、平成27年8月より物価資料又は見積りの平均値を用いることとします。

1 施工パッケージ型積算方式における用語の定義

名	称	定義・解説	備考
積算単価		さいたま市における積算年月の施工単位当りの単価 補正式により標準単価を補正することで算出	
標準単価表		施工パッケージ型積算方式の標準単価表 標準単価、代表機労材規格、機労材構成比が公表されている	国総研HPで公表
標準単価		東京17区における基準年月の施工単位当りの標準的な単価 例) 平成27年度の基準年月は、平成26年4月	国総研HPで公表
補正式		積算単価を算出する際に用いる式 標準単価、機労材構成比、機労材単価を用いて算出	国総研HPで公表
代表機労材規格		標準単価を設定した際の代表的な機械・労務・材料・市場単価 (最大で機械3機種、労務4職種、材料4規格、市場単価1規格)	国総研HPで公表 土木工事標準積算基準書
機労材構成比		標準単価ごとに設定された代表機労材規格ごとの金額構成比率	国総研HPで公表
代表機労材規格の 基準単価	東京機械単価	東京17区における <mark>基準年月</mark> の機械単価(賃料又は損料)	土木工事設計単価表
	東京労務単価	" 基準年月の労務単価	土木工事設計単価表
	東京材料単価	" 基準年月の材料単価 は、	土木工事設計単価表
	東京市場単価	" 基準年月の市場単価	土木工事設計単価表
代表機労材規格の 地区単価	さいたま機械単価	さいたま市における <mark>積算年月</mark> の機械単価	土木工事設計単価表
	さいたま労務単価	〃 精算年月の労務単価 ※ おいます。 ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	土木工事設計単価表
	さいたま材料単価	" 積算年月の材料単価	土木工事設計単価表
	さいたま市場単価	" 積算年月の材料単価	土木工事設計単価表

2 積算単価(補正式のイメージ)

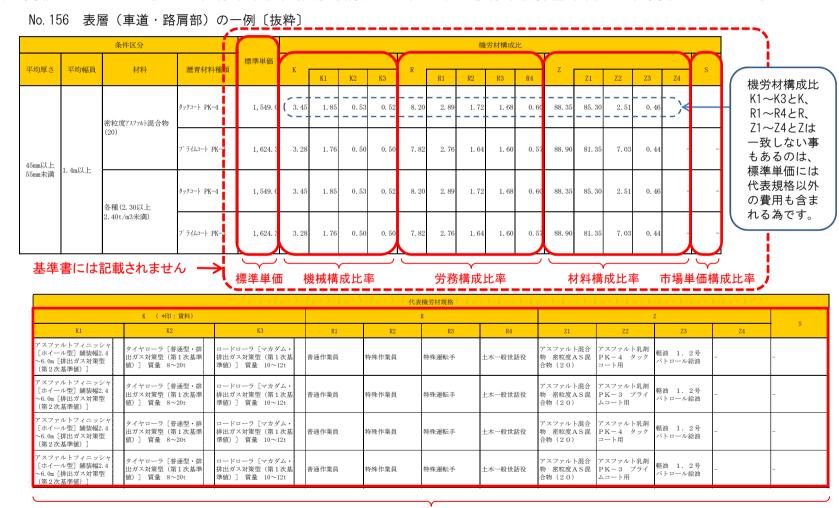
積算単価を標準単価、機労材構成比、基準単価、地区単価から補正式により算出



国土交通省国土技術政策総合研究所のホームページで公表 (国総研HP http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/index.htm) さいたま市では、土木工事標準積算基準書を発行した年度の4月に 適用されている「施工パッケージ型積算方式標準単価表」を適用 するものとします。

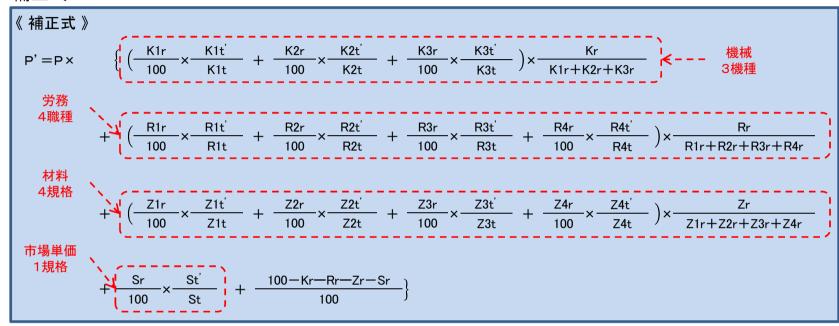
3 施工パッケージ型積算方式標準単価表

国総研HPで公表されている標準単価表には、施工パッケージごとに、標準単価、機労材構成比、代表機労材規格が掲載されています。なお、標準単価、機労材構成比は、土木工事標準積算基準書には、掲載されません。



代表機労材規格

4 補正式



P' : 積算単価 : Zr : 標準単価における全材料(Z1~Z4, 他)の構成比合計

? Z1r~Z4r :標準単価 Z1r表材料規格Z1~4の構成比

〈r :標準単価における全機械(K1〜K3,他)の構成比合計 Z1t〜Z4t :代表材料規格Z1〜4の基準単価

 $K1r\sim K3r$:標準単価における代表機械規格 $K1\sim 3$ の構成比 $Z1t'\sim Z4t'$:代表材料規格 $Z1\sim 4$ の地区単価

 K1t ~K3t : 代表機械規格K1~3の基準単価
 Sr : 標準単価における市場単価Sの構成比

 K1t ~K3t : 代表機械規格K1~3の地区単価
 St : 市場単価Sの所与条件における基準単価

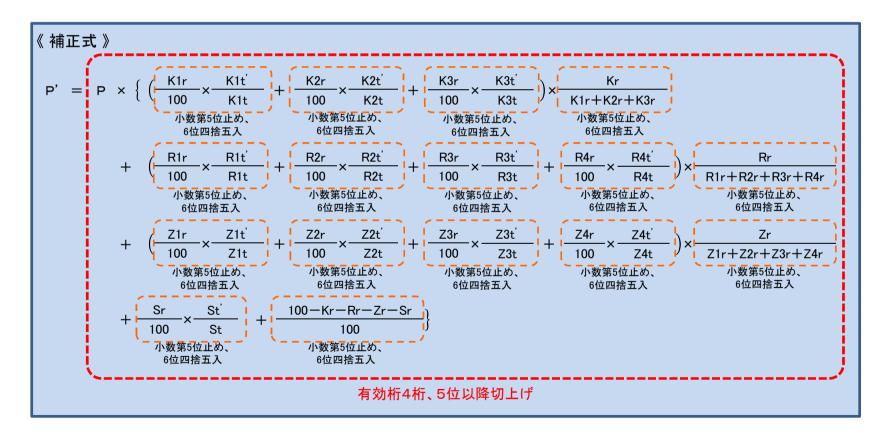
Rr :標準単価における全労務(R1~R4,他)の構成比合計 St' : 市場単価Sの所与条件における地区単価R1r~R4r :標準単価における代表労務規格R1~4の構成比

R1t~R4t : 代表労務規格R1~4の基準単価 R1t'~R4t': 代表労務規格R1~4の地区単価

Ⅲ さいたま市における施工パッケージ型積算方式の運用

1 補正式の運用

- ① さいたま市における補正式の運用においては、各規格ごとに小数第6位四捨五入、5位止めとして計算します。
- ② 算出された値(P')は、有効桁4桁とし、5位以降を切り上げます。
- ③ 上記により算出された値(P')に、小数点以下がある場合は、小数点以下を切り捨てます。 ただし、算出された値(P')が、1円未満の場合は、1円とします。



Ⅲ さいたま市における施工パッケージ型積算方式の運用

2 補正式の計算例

表層(車道・路肩部)、舗装厚 50mm、施工幅員 4.0m、密粒度As(20)、プライムコートの場合 《補正式》適用標準単価表 No.156

積算単価
$$P'=1,624.3 \times \left\{ \left(\frac{1.76}{100} \times \frac{40,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,000}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,900}{11,900} \right) \times \frac{3.28}{1.76+0.50+0.50} \right.$$

$$+ \left(\frac{2.76}{100} \times \frac{18,300}{18,900} + \frac{1.64}{100} \times \frac{20,600}{21,600} + \frac{1.60}{100} \times \frac{22,000}{21,200} + \frac{0.57}{100} \times \frac{22,200}{23,000} \right) \times \frac{7.82}{2.76+1.64+1.60+0.57}$$

$$+ \left(\frac{81.35}{100} \times \frac{10,900}{11,100} + \frac{7.03}{100} \times \frac{91,000}{96,000} + \frac{0.44}{100} \times \frac{97}{122} + \frac{-}{100} \times \frac{-}{-} \right) \times \frac{88.90}{81.35+7.03+0.44+-}$$

$$+ \frac{-}{100} \times \frac{-}{-} + \frac{100-3.28-7.82-88.90--}{100} \right\}$$

$$= 1,624.3 \times \left\{ (0.01760+0.00500+0.00500) \times 1.18841 + (0.02672+0.01564+0.01660+0.00550) \times 1.19026 + (0.79884+0.06664+0.00350+0.00000) \times 1.00090 + 0.00000 \right\}$$

$$= 1,590.654831 \quad (式の途中で四捨五入をしない場合、1590.673723となる。)$$

$$= 1,591.000000 \quad (有効析4 析5 析以降切上げ)$$

※ 補正式中に用いた基準単価及び地区単価は、例示用に用いた単価であり、実際の価格ではありません。

= 1,591 円 さいたま市の積算単価(1円未満切り捨て)